

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100644		
法人名	社会福祉法人 熊本厚生事業福祉会		
事業所名	はなぞのケアセンターグループホーム		
所在地	熊本市西区花園7丁目25-23		
自己評価作成日	H28年9月30日	評価結果市町村受理日	平成29年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい
所在地	熊本市南区馬渡1丁目5番7号
訪問調査日	H28年11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは東館と西館があり、小規模多機能ホーム、通所介護、訪問看護と同一建物内にあります。軽介護から自宅での生活が困難になっても”いつもの場所で顔なじみの職員がいる安心感”を持って頂けます。東館は、建物の天井が高く広々としており、太陽の光が差し込みます。居室には使い勝手の良いクローゼットが備え付けてあり、間接照明で落ちついた雰囲気です。西館には畳スペースと居室の廊下を通り抜けた先には小さな庭をゆったり眺められるくつろぎスペースがあります。行事は年間計画を立て、花見、梅干し作り、蛍祭り、盆踊り大会、運動会、忘年会、餅つき等を企画し、地域交流も盛んで人と人の繋がりを大切にしながら生活して頂いています。御家族には定期的に連絡し、御入居者様の生活の様子が分かるよう個人別のお便りを写真付きで毎月お渡ししています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅街の中の建物に、通所介護、小規模多機能ホームをはさんだ両サイドにグループホームがあり、入居者の静かな日常の流れがあります。敷地内の事業所間での交流ができており連携が図られています。地域とのイベント交流は活発に行われています。今後、日常的な地域交流も増えていくことで、地域における福祉拠点としての役割を担い、近隣住民の方々からも認識されることでしょう。家族に月1回出されている利用者通信が、家族との連絡を兼ねた1か月に1回の利用者生活要約になっています。法人組織の管理体制がシステム化されており安定したサービスが提供できています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一人一人の名札の裏に理念を入れている。又、毎週月曜日の朝礼時には理念の唱和を行い全職員が理念を意識し職務を行っている。	朝礼時の確認や年数回法人全体の研修等で確認されています。全職員が理念に基づく共通の目標に向かう認識、その具体的な取り組みとケアの実践に繋げることを模索されています。	理念を家族や利用者、訪問者にも見えやすくする工夫と、職員だけでなく理念が共有され、ケアの実践につながることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所主催の秋祭りに地域の方の参加を呼びかけている。地域行事の盆踊り・桜灯籠・敬老会へも参加。設営や職員出し物なども行い地域との連携が出来ている。	地域行事への参加や地域清掃活動を通じ、地域の方々から職員さんが名前を覚えられほど交流が行われています。イベント以外での日常的な交流が少ないことは、事業所として認識されています。	日常的なボランティアの受け入れと、地域の方々との日々の付き合い方法などの仕組みづくりをより一層検討していかれることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校や高校、近隣の公民館での認知症サポーター養成講座の実施、運営推進会議でインシ・アクシデント報告及び対策等を報告を行い地域の委員の方も援助法を参考にされている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	パワーポイントを作成。行事参加で利用者様の普段は見せられない良い表情の写真を紹介、インシデント・アクシデントやその改善方法、サービスの取り組み情報等報告を行っている。又、ご利用者様のご家族や地域の委員の方からご意見を頂き改善や今後の参考に取り入れている。	併設の小規模多機能型住宅介護事業所と合同で運営推進会議が開催され、入居者の病院受診介助方法など運営推進会議での意見をもとに見直されています。	運営推進会議を活用し、地域との連携強化を図る取組を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議へ地域包括支援センターの参加があり情報交換や月1回、熊本市の介護相談員が来設し情報交換おこなっている。サービスで分からないことがあった時には区役所などに電話を行い相談を行っている。	ささえりあ(地域包括支援センター)との連携がなされ、役所への訪問は、書類等の申請時のみとなっています。	役所の事業所担当者を把握し、顔の見える関係づくりやこまめな情報交換を進めていかれるとよいですね。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみ行っている。法人内に身体拘束廃止委員会があり施設内ラウンドや勉強会を実施。全職員で身体拘束廃止への取り組みを行っている。	法人内勉強会等を積極的に活用していません。徘徊等がおきた際には、拘束に繋がりがかねない事例に対して要因分析に向けたカンファレンスで検討されています。	ヒヤリ・ハットレポート等、起きた時の対応策の検討になりがちなことを、事柄が起こる前の対応方法や、利用者の状況等についてのカンファレンスが行われています。その取り組みの結果を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会主催での勉強会を開催し、職員の意識を高めている。また、職員同士でも言い合える環境作りに努め、ひやりはっと用紙を利用し、発見時は記入する様指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修資料や冊子を職員がいつでも見ることが出来るように準備を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用申し込み時に施設見学や家族の不安をお聞きし、契約の前には契約書に沿って説明を行い理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内のあまり人目につかない場所に意見箱を設置し、御家族や来訪者の意見や要望を求めている。また面会時にご家族へ話を聞いたり満足度調査を実施し意見をj得ている。	運営推進会議や満足度調査のみならず、ケアプラン説明時や家族面会時等に意見を聞く機会を多くもつよう取り組まれています。アンケートの返信が少ないことが課題と捉えています。	掲示板等を利用しご家族意見のフィードバックをすることなどで、意見を言いやすい環境づくりを検討されてはいかがでしょうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りと月1回のスタッフ会議で職員の意見交換を行っている。職員の面接時には今後反映できるように意見、提案を聞いている。	毎月のミーティング、施設会議と合同会議、年2回の人事考課面談など、日々の業務改善を検討し反映する体制はとられています。	職員意見が反映された事例の公表をすることで、決められたことだけでなく新しいことに取り組んでいく職員の方が増えていくことを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を取り入れ、やりがいを持てるようなシステムを作っている。永年勤続者には全体会議で表彰を行ったり、年間計画を立て介護技術や認知症等勉強会を開催し知識向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内勉強会、施設勉強会、外部研修会の案内を行い、自らが学びたい研修を選択出来る。今年度は介護福祉士取得を目指している職員は法人の実務者研修を受け受験を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内グループホームとの会議で情報交換を行ったり、外部研修、熊本市グループホーム連絡協議会やブロック会議等にも参加し、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族からご要望等を聞き、良好な関係を築くよう努力している。入居からしばらくは特に注意をし様子観察や声かけを行いご本人から話を聞き不安を除く援助を行う努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には実際に施設見学を行ってもらい、雰囲気等を見て頂いている。家族との電話や面会の時にも十分な聞き取りやコミュニケーションを取る事を心がけている。入居後には毎月個人ごとの写真入りお便りを発送し生活の様子を報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	経験のある職員が家族の思い、本人の状況、何が必要・求められているのかを確認しながら汲み取る努力をしアドバイスを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来る事は過介護にならないように注意を行い料理の下ごしらえや食器洗い、洗濯物干し洗濯たたみ、農園活動等皆で暮らしている雰囲気を出すよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話での状態報告や月1回の個人のお便りを通じてご本人とご家族との絆を保つように努力をしている。秋祭りや敬老会等には御家族へも参加を呼びかけ一緒にお祝いをしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の友人等の面会がっており、同一建物内の通いのサービスの方との交流やボランティアの方々との交流も行っている。また地域の祭、盆踊り大会等に参加し顔なじみの関係を保つように支援している。	建物内の別事業所との交流が実施されています。家族との外出が多くなるような支援を心がけていますが、事業所としての個別の対応は難しい状況です。	イベント交流ではなく、一人ひとりにあわせた交流を今後も支援していかなれることを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みの関係が出来ている方は食事の時や創作活動時に会話が出来よう一緒にテーブルにしている。毎朝のレクリエーションではご利用者様からお話をして頂く場面を設け関わりを持つように援助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退去されても医療機関等に面会に行ったり、退院後にグループホームに直接戻って来られない場合は御家族の意向をお聞きし法人内の事業所の紹介や再度グループホームに入居できるような体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前には自宅やご利用中の施設などへ訪問し事前の情報収集を行っている。また本人の思いを知る為に会話の時間を多く取り、記録に残したり家族へ内容を尋ねて本人の事を少しでも理解し検討を行っている。	会話を中心に日頃の観察等でその人を知ることが、思いや意向の把握になると考えて対応されています。	利用者の思いや希望を實踐されることで新たな思いが表出されます。實踐の工夫を期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書の確認と家族の面会時には出来る限り御本人との会話で不明な事、情報提供書に記入していない事、生活の様子を聞くようにしている。また日常の会話からも好きな事や特技を引き出し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ADLの変化についての記録を行い、申し送り等で職員全員が把握出来るよう努めている。それぞれの特技を活かしたり日常行っておられた事の継続の食器洗いや、散歩や農園活動、そろばん、食事作り等残存能力の維持に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族・ご本人・介護・看護・ケアマネで日常の情報交換、毎月のモニタリング、スタッフ会議での意見を反映させながらケアプランを作成している。	関係者からの情報収集をもとに、介護支援専門員によりアセスメント、ケアプラン立案、モニタリングと実施されています。カンファレンスを通してスタッフ間の話し合いが積極的に実施されています。	担当者によって作成される家族へのお便りが、1か月の生活評価となっています。モニタリング等スタッフそれぞれが担当することで、より一層介護計画が身近になることでしょう。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は出勤時には前日までのケース記録・活動記録・申し送り簿に目を通し情報の共有を行い実践し計画の見直しにも生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内のグループホームで連携を行い運動会・さつまいも収穫・花見・音楽会の実施、併設の小規模多機能ホームや通所との交流、合同の交流会等を実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の季節毎の催し物(ほたるコンサート、盆踊り大会、文化祭等)に参加。グループホーム周辺の散歩等、外に出て生活にハリが出るような計画を立てている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族やご本人の希望に沿った医療機関へご家族での受診、家族が対応が難しい場合は職員で対応、受診時にはバイタル表を持参して頂いている。又、必要時には訪問看護師が病院との連携を行っている。	受診に関しては基本はご家族対応ですが、ご家族の希望や本人の状況に応じ職員が対応し関係医療機関との連携を図っています。家族が負担にならないよう受診支援等早く気づくようにしたいと考えられています。	年数が経過することで支援内容も変化します。今後も適切な医療をうけられるための受診支援を継続していかれることを期待します。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師にバイタルや普段と様子が違う方は速やかに報告を行う体制と取っている。急変時には併設事業所の看護師とも連携をおこない適切な看護、介護、受診が出来るように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して医療を受けて頂ける様にご利用者様の情報提供を行っている。入院中はご利用者様の状態確認の為に訪問を行い病院の看護師や相談員の方から情報を得て病院との関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族に事前に状態悪化や重度化した場合の説明を行い同意を得ている。状態悪化の際はかかりつけ医師の協力の下、御本人、御家族の意思を尊重しその結果を受容し、方針の共有を図っている。体制が整えば将来的には施設での看取りの検討。	重度化指針や施設の方針はご家族に説明し、かかりつけ医を含めて共有を図っています。グループホーム内での看取りをしていたり医師や、職員教育等を今後の課題として看取りへの取り組みを検討されています。	地域の医療資源などを活用し、検討されている看取り体制の構築が実現されることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心配蘇生法、AEDの使い方等の実技講習を開催している。又、看護師による救急時の対応、リスク委員会によるKYT訓練や法人内のインシデント、アクシデントの情報共有を行い危険予知に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を夜間想定・昼間想定と分けて実施している。また地域の方等には運営推進会議で避難訓練への参加協力の依頼、今後開催にあたり出来るだけ地域の方も参加して頂ける様に検討を行いたい。	定期的な消防訓練を実施され、地域の避難所としての機能を有し災害に備えています。	避難時に地域の方に何をしてほしいのか、訓練場面で伝え指導していくことも大切です。多くの地域の方々が災害訓練に参加するよう期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内の接遇研修や勉強会を通じて職員のスキルを向上させている。入居者の方はお客様という気持ちを忘れず、様付けでお呼びし、職員間でも常に言葉のかけ方について確認し合っている。	接遇研修が充実しており、様付けの言葉遣いがルールで決められており職員の意識付けに力を入れています。様付けを不快に思われる方等がおられることも認識しながら、個別に対応するようにされています。	更に一步進んで「一人ひとりの好み、生活を尊重するということはどのようなことか」について職員間で検討されることが大切ではないでしょうか。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけはゆっくりと分かりやすい言葉かけを行い出来るだけ本人の思いを聞くことが出来るように援助を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の体操やレクリエーションの声掛けは行っているが参加はご本人様の意思を尊重し部屋で休まれている方もおられます。又、ご利用者様からの希望ある散歩や制作などへの援助を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様に入浴時の衣類の準備をして頂いたり起床時や外出時には整容の援助を行い、散髪は定期的に美容院から来ていただき好みの髪型にカットをして頂くように援助を行い敬老会等の式典参加時はお化粧の介助を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人内の管理栄養士の作ったメニューの下、一人一人の食事が食べやすい様に食べやすい大きさに刻んだり柔らかくして提供を行っている。ご利用者様にも台所に立って食事作りや食後のお皿洗いを手伝って頂いている。	食事中はテレビを消して音楽を流すなど食事を楽しむ支援に取り組まれています。誕生日にお好みのメニューを提供するなど工夫されています。法人内の専門職の指導を受けて味の向上を図る努力もされています。	季節の花を飾ること、メニュー表作りなどなど、その時々、その利用者様の好みや能力に応じて楽しみ方を工夫されるといいでしょう。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士の作ったメニューに沿って作り、水分摂取把握が必要な方はこまめな声掛けとコーヒーやココア等好みに応じて摂取をすすめ一日の水分量の記入を行い体調維持に努めている。。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアが可能な方は声掛けを行い自室への誘導を行っている。介助が必要な方は声掛で自力で出来る事は行って頂き介助が必要な部分の援助。口腔内の状況を確認し必要に応じて歯科医に相談を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	離床時や食前食後、席を立たれトイレを探されるなどのサインを見逃さず声掛けを行いトイレ誘導を行いトイレでの排泄を援助している。ご利用者によっては同性の介助を個々の排泄パターンに合わせての支援を行っている。	できる動作を確認しながら一人ひとりのシグナルを見逃さないように、気持ち悪くないように支援されています。昼夜問わず自立支援に向けた取り組みも実施されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分補給をこころがけ、チェックリストにて管理している。体操や散歩腹部マッサージを行い出来るだけ便秘にならない様に援助を行っている。又、必要時には看護師への排便の報告もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の希望があった時には予定の入浴日以外にも対応を行っている。入浴は会話を楽しみながらゆっくり出来るように援助を行っている。	基本は週2・3回の入浴を実施し、希望により変則的に対応しています。皮膚の状態を観察する、会話や歌で緊張をほぐす、また、入浴への声を掛ける場所などに工夫しながら個別の入浴支援に取り組まれています。	個別の対応を記録に残し、職員間での共有を図られるとよいでしょう。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各自が好きな時に部屋に戻り、休まれたりされている。又、午後は特別に活動を入れず、希望に応じてベッド臥床して頂いたりテレビや会話などその方の生活習慣で過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員分の内服確認リストや、処方箋の最新コピーを綴じたファイルを作っている。すべての薬を完全には把握出来ていないが、都度リストで確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自の生活歴を活かした役割のお手伝いや楽しみごとの継続を援助し気分転換を図って頂ける様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内散歩・農園での収穫、法人グループホームの合同行事・地域行事への外出の支援を行っている。また家族の協力により、一時帰宅や、外食に出かけたりもしている。	計画的な外出が実施されています。その方の希望にあった支援をするために、言葉にはでなくとも外に出たいと思われる態度などを察知しすぐに対応するように心がけています。	シグナルを送られない人に対し、希望をどうやって見極めていくのかを検討されることも大切です。ボランティアなどの地域資源を活用した外出支援に取り組むことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には御家族が管理されている。お金を持っている事で安心される方はご家族が少額を渡されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を本人希望の際は施設内に備え付の公衆電話で援助。時折遠方の家族からの電話はゆっくり会話をされる様に椅子を準備し援助。ご家族への手紙を書かれる方へはご家族へ渡す援助を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた貼り絵を制作し廊下へ掲示している。食堂兼ホールは明るく温湿度の管理も行い心地よく過ごすことが出来るようにしている。	天井も高く陽の光がたくさん差し込むよう設計されています。整然とした清潔感がある空間です。季節に応じた掲示物やモニュメントを入居者とスタッフが一緒に作成するようにされています。窓の干し柿が季節を表していました。	華やかな飾り付けは必要ないと思いますが、壁や柱に季節の花一輪があると心和むこともあります。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	話が合う方同士のテーブル配置やソファに座ってくつろいで頂いたり、畳のスペースでは腰かけたり横になられたりと思い思いに過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはエアコン・ベッド・洗面台・クローゼットの備え付けがある。ご自宅で使用されていたタンスや椅子、テーブル等を持ち込まれたり、家族の写真飾られ思い思いの空間を作られている。	整然と片づけられた居室作りとなっています。各部屋清潔感がありますが、やや生活感に欠ける印象です。	利用者本人と家族、スタッフと一緒に、馴染みの家具や好みの配置にするなどその人の居室作りを工夫されてはいかがでしょうか。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・浴室・トイレは出来るだけ残存機能を維持できるようにで手すりやバーを設置してある。活動作品や行事写真を見て楽しむ掲示板、裏庭の農園で収穫、畳スペースでの洗濯物たたみ等出来る事をして頂きながら充実した生活を送れるよう努力している。		